

關東神宮創立ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク
昭和十三年五月二十四日
内閣總理大臣公爵近衛文麿

閣甲第一〇九號

昭和十三年五月三十日

決定 諒和 年 月 日行 昭和 年 月 日

内閣總理大臣

奏

内閣書記官長

内閣書記官

別紙滿洲國駐劄特命全權大使稟申關
東神宮創立ノ件ヲ審査スルニ關東州及
南滿洲鐵道附屬地ニハ未タ在滿邦人一
般ニ信奉スル所、廟社ナク民心、歸一ヲ圖
ル點ニ於テ遺憾ナキ能ハス仍テ此、際關東

州旅順市ニ神社ヲ創立シ 皇統始祖
ニ在シマス 天照大神ト鴻德偉業未曾
有ニシテ、我同胞ノ大陸發展、途ヲ拓キ
給ヘル 明治天皇ニ神ヲ祭神トシテ
二座ニ奉祀シ社號ヲ關東神宮ト定
メ社格ヲ官幣大社ニ列セラレ度ト云フニ
アリ關東州統治上ハ勿論在滿邦人ノ大
陸發展上ニモ繫要且至當、儀ト認メラ
ルルニ付右神社創立、儀奏請相成然ル
ハシ

追テ本件御裁可、上ハ六月一日創
立仰出、コトト致度

内閣告示第三號

一關東神宮

祭神 天照大神

明治天皇

右神社ヲ關東州旅順市ニ創立シ社格
ヲ官幣大社ニ列セラル旨 仰出サル

昭和十三年六月一日

内閣總理大臣

通牒案

昭和十三年六月一日

内閣總理大臣

宮内大臣宛

一關東神宮

右神社ヲ關東州旅順市ニ創立シ
明天照大神(明治天皇)，二神(祭神)トシテニ座ニ奉祀
シ社格ヲ官幣大社ニ列セラル旨被仰出候

行文四八七號

昭和十三年四月二十日

對滿事務局總裁 杉山 元

内閣總理大臣公爵 近衛文麿 謹

關東神宮創立ニ關スル件

首領ノ件ニ關シ滿洲國駐劄特命全權大使ヨリ内閣總理大臣宛別紙ノ通
稟申有之候處右ハ國風移植ノ大本トシテ緊要且至當ノコトト被存候ニ
付可然御取付相煩候

追而本件ハ其ノ重大性ニ鑑ミ内務省ノ意見ヲ徵シタルニ同省モ當局
ト同意見ニ有之爲念申添候

内務省一二閣社第一〇號

昭和十三年二月三日

内務次官

對滿事務局次長殿

關東神宮ノ祭神等ニ關スル件

昭和十二年五月十一日付行第四五號並同年十二月二十八日附行第四五
一號ノニヲ以テ祭記ノ件照會相成候處右ハ關東州旅順市ニ 天照大神、
明治天皇ノ二柱ヲ奉祀スル神社ヲ創立シ社名ヲ關東神宮トシ社格ヲ官
幣大社トナスヲ適當ト認メ候條仰了知相成度

追テ祭神 天照大神ハ帝國ノ神祇中尊貴無比ノ御地位ニアラセラル

ルヲ以テ上座ニ 明治天皇ハ其ノ大座ニ奉祀スルヲ至當ト認メ候

行第四五一號ノニ

昭和十二年十二月二十八日

對外事務局次長 原 邦道

内務次官 黃 習 久 忠 敏

關東神社祠立ニ關スル件

首題ノ件ニ關シテハ五月十一日附行第四五一號ヲ以テ貴見照會中ノ
所今般朝東局ヨリ左記ノ通計畫ノ一部ヲ變更致度旨申越候條右變更
ニ對スル貢見併セテ御回示相成候致度

記

一、神社名ヲ「關東神宮」ニ改ムルコト

二、鎮座地ノ境内ヲ「約十七万坪」ニ改ムルコト

三創立費ヲ「一百万圓」ニ改ムルコト

四工事ハ「昭和十三年度ヨリ五ヶ年間ノ繼續工事トスルコト」ニ

ムルコト

行第四五一號

昭和十二年五月十一日

對滿事務局次長 原 邦 道

内務次官 橋 久 忠 殿

關東神社ノ祭神等ニ關スル件

今般關東局ヨリ別添計畫要項ニ依リ官幣大社關東神社ヲ創立致度旨稟
申有之候ニ付テハ右社格、社號、祭神等ニ關シ貴見承知致度此段及照
會候也

創立計畫要項

二、創立總旨

凡ソ國土ヲ拓キ民衆ヲ移シ彼等ヲ安心得シメ忠君愛國ノ實ヲ舉ケントスルニハ須ラク神靈ノ應報ト民心ノ歸附スル所ナルヘカラス然ルニ關東州及管下各地ニ眞祭セル神社ハ何レモ其格社タル地方的神社ニアリタ在滿邦人一校ニ信奉スル所ノ廟社ナク民心ノ一つ圖ルノ點ニ於テ遺憾トスル者ナキ能ハス殊ニ滿洲國建國後ニ於ケル日滿兩帝國ノ緊密關係並ニ在留邦人ノ活動發展ノ趨向ニ徵スルモノ際國風移植ノ大本トンテ在滿邦人等シク尊崇スヘキ神祇ヲ勸請シ永ニ報本反始ノ誠ヲ致サシムルハ關東州統治上ハ勿論在滿邦人ノ大陸發展上ニモ最要ノ事トス就テハ茲ニ皇統ノ始祖ニマシマス 天照大神ト鴻德偉業未嘗有ニシテ我同胞ノ大陸發展ノ途ヲ開キ給ヘル 明治幣大社ニ列ン以テ民族生活ノ確立ヲ期スルト共ニ益々國民精神ノ振作ヲ圖ラントス、之關東神社ノ創立ヲ計畫スル所以ナリ

三、鎮座地
旅順市大正公園及隣接山林地等
増内約二十九萬坪

三、神社名

四、神社關東神社

五、祭官幣大社

天照大神 明治天皇 二 殿

六、社殿其ノ他ノ設備

本殿、幣殿、拜殿、寶物殿、鳥居、社務所、其ノ他

七、創立費及運搬方法

創立費ハ八十萬圓トシ關東局特別會計ヨリ支出ス

別ニ奉讚會ヲ設ケテ奉讚セノムル方針ナリ

八、工事

B5タイプライター用紙

工事ハ昭和十三年度ヨリ四ヶ年ノ繼續工事トシ昭和十二年度ニ於テハ
調査及設計ヲ完了シ同十三年度ヨリ障害樹木ノ移植、地均シ材料ノ蒐
集ヲ開始スルト共ニ各建物ノ建築ニ着手シ第四年度ニ於テ各附帶工事
共ヘ周囲塀、排水設備等一全部ヲ完成セシム

九、維持方法

創立後ハ社入金、官公ノ供進金、基金收入其ノ他ノ收入ヲ以テ維持ス
ルコトトシ大體一ヶ年四萬圓乃至五萬圓程度トス

行者國八七號ノニ

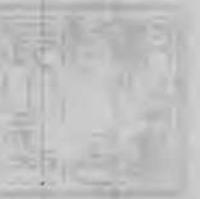
昭和十三年五月十一日

財團事務局次長

内閣書記官長

關東神宮創立ニ關スル件

四月二十日爾行第西八七號ヲ以テ進達致置キタル旨題ノ件六月一日附
ヲ以テ創立仰出サルル詔御取計相煩度此段得貴極候



關學第二四號

昭和十二年十二月十日

滿洲國駐劄特命全權大使 植田謙吉

内閣總理大臣 公爵 近衛文麿 殿

關東神社創立ニ關スル件

客年十二月十六日附關行第二九七六號ヲ以テ申請置候首題ノ件左ノ通一部變更相成様致度及稟申候也

記

一、神社名ヲ「關東神宮」ニ改ムルコト

關 東 局

二、鎮座地ノ境内ヲ「約十七万坪」ニ改ムルコト（別圖ノ通）
三、創立費ヲ「百萬圓」ニ改ムルコト
四、工事ハ「昭和十三年度ヨリ五ヶ年間ノ繼續工事トスル」コトニ改ム
ルコト（内譯別紙ノ通）

關東縣官創建工事費

名 檢	總 額	初 年 度	二 年 度	三 年 度	四 年 度	五 年 度	摘要
創建工事費	1000000	100000	100000	100000	100000	100000	
事務費	40000	10000	10000	10000	10000	10000	
工事費	540000	120000	120000	120000	120000	120000	

事務費内訳

名稱	總額	年度				
		初年度	二年度	三年度	四年度	五年度
事務費	四〇〇〇圓	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
特殊應費	四〇〇	四〇〇	—	—	—	—
旅費	一〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇
嘱託手當	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇
慰勞金	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
雇員給	一〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇
傭人料	六〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
雜費	四一〇	四一〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇

算 卷 縮 尺 尺 度 尺	竹 尺 定 規 規	製 圖 器 板	製 圖 板	製 圖 板	製 圖 板	製 圖 板	製 圖 板	名 稱	特 種 標 識 及 書 類 別	品 數	單 價	小 計	摘要
二 面 個	三 個	三 組	三 組	三 組	三 枚	三 枚	二 個						
二 七 五 一 一 一一	五 五 一 一 一一	一 一 一 一 一一	六 六 六 六 一一	六 六 六 六 一一	六 六 六 六 一一	六 六 六 六 一一	六 六 六 六 一一	三 三 三 三 一一	三 三 三 三 一一	三 三 三 三 一一	三 三 三 三 一一	三 三 三 三 一一	三 三 三 三 一一
五 〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇 〇								
五 〇 〇 〇 〇 〇	一 一 一 一 一	四 四 四 四 四	五 五 五 五 五	三 三 三 三 三	六 六 六 六 六	六 六 六 六 六	六 六 六 六 六	六 六 六 六 六	六 六 六 六 六	六 六 六 六 六	六 六 六 六 六	六 六 六 六 六	六 六 六 六 六

	計	品	器具	繪色	ス	ストーブ	暖	器	火	消	器具	類	計
	計	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	式
計	一	二	二	二	二	二	三	三	一	一	一	一	式
其 他													
雜 品													
便 具													
直 用													
樂 器													
罐													
ベ ケツ													
品													

工事費内訳						
	名稱	員數	単價	小計	摘要	要
本 祀 帚 透 拜 神 實 賀						
譲 門 坪 詞						
所 庫 庫 殿 共 殿 殿 殿						
	社長					
二〇一	坪	一八	坪	一八〇〇	木造棟木建、床拭板張、四方過勾	
二二二	坪	一八	坪	一八〇〇	正面木階及濱板付、屋根銅板葺千	
二五三	坪	一八	坪	一八〇〇	木勝男木付	
二八四	坪	一八	坪	一八〇〇	同 床拭板張一部石敷屋根銅板葺	
三一五	坪	一八	坪	一八〇〇	同 床石數	
三四六	坪	一八	坪	一八〇〇	同 床石數	
三七七	坪	一八	坪	一八〇〇	同 屋根銅板葺	
四〇八	坪	一八	坪	一八〇〇	同 床石數、屋根銅板葺	
四三九	坪	一八	坪	一八〇〇	同 校倉造、床拭板張屋根銅板葺	
四七〇	坪	一八	坪	一八〇〇	同 床拭板張一部石數同	
一六二〇〇	同	床石數	同			
一六二〇〇	同	床石數	同			

雜器庫	九 〇〇	四〇〇 四〇〇	延長 坪	同	同	同	同
社務所	一 〇〇	一〇〇 一〇〇	一一 坪	同	同	同	同
附屬屋共	九 〇〇	四〇〇 四〇〇	一一 坪	同	同	同	同
參集所	一 〇〇	一〇〇 一〇〇	一一 坪	同	同	同	同
築地坪(門共)	九 〇〇	四〇〇 四〇〇	一一 坪	同	同	同	同
				木造素木建屋根鋼板葺			
				同	同	同	同
				附屬屋根瓦葺			
				鐵筋コンクリート造地下室付屋根瓦			

鳥居	(大小基)式	二九〇〇〇	木造及鋼筋コンクリート造
參拜人休憩所	二〇坪	一〇〇	
社宅	一式	六〇〇〇	木造 屋根瓦葺
雜建設物	一式	一六〇〇〇	土坦、石階段、削札、社號牌、燈籠 便所等
土木工事	一式	一一〇〇〇	切取、埋土、參道苑路、折壁、石崖
林苑工事	一式	一一〇〇〇	等
燒房設備	一式	一九〇〇〇	植樹、移植、手當等
殿内補設	一式	一九〇〇〇	
諸調度	一式	一九〇〇〇	
		二九〇〇〇	ヤハセニ
祭典費	一式	一九〇〇〇	建築ニ關スル諸祭典及儀座、竣工等 祭典費

候 股 物 一 式	計
六〇〇〇	九二三〇〇〇

事務所 小作場等

名稱	金額	工事施工年度割				
		初年度	二年度	三年度	四年度	五年度
本殿	10000	10000				
祝詞	10000	10000				
幣	10000	10000				
透塀(門共)	10000	10000				
拜殿	10000	10000				
庫殿	10000	10000				
庫所	10000	10000				
神饌	10000	10000				
實寶	10000	10000				
神拜	10000	10000				
謨	10000	10000				

雜 器 庫	社務 所	附 屬 所	屋 共 所	參 集 所	築 地 塙 (門 共)	左 右 手 水 舎	左 右 騎 門	神 庫 門	神 祭 器	神 與 廟	巡 神
貲 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000				
貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000					
貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000					
貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000					
貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000	貯 000					

諸 調 度	殿 内 補 設	拵 照 明 水 設 及 備	林 炭 房 設 事	土 木 工 事	雜 建 設 物	社 宅	參 拜 人 休 憩 所	鳥 居
一 六 七 五	一 九 八 三	一 九 九 二	二 九 九 一	二 九 九 一	一 九 九 一	一 九 九 一	一 九 九 一	一 九 九 一

祭 費	典 費	備 費	計 費
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇
六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	一八〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇

關行第二九七六號

昭和十一年十二月十七日

滿洲國庭割特命全權大使 植田謙吉

内閣總理大臣 廣田弘毅 殿

關東神宮 二段

關東神社創立ニ關スル件

凡ソ國土ヲ拓キ民衆ヲ移シ彼等ヲシテ安心立命ノ地ヲ得シメ忠君愛國ノ實ヲ舉ケントスルニハ須ラク神靈ノ應報ト民心ノ歸宿スル所ナカルヘカラス然ルニ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニハ未タ在滿邦人一般ニ信奉スル所ノ體社ナク民心ノ歸一ヲ圖ルノ點ニ於テ甚々遺憾ナキ能ハサル次第ニ

古之候ニ付テハ此ノ際國風移殖ノ大本トシテ在滿邦人等シク尊崇スヘキ
神祇ヲ勵講シ永ヘニ報本反始ノ誠ヲ致サシムルハ關東州統治上ハ勿論在
滿邦人ノ大陸發展上ニモ最モ緊要ノ事ト存候就テハ茲ニ 皇統ノ始祖ニ
在シマス 天照大神ト鴻德偉業未嘗有ニシテ我同胞ノ大陸發展ノ途ヲ拓
キ給ヘル 明治天皇ノ二神ヲ奉祀致度社殿ノ造營ハ昭和十三年度ヨリ四
ヶ年ノ繼續事業トシ之力創立調查準備費トシテ昭和十二年度豫算ニ二万
五千圓ヲ計上致候ニ付社地ヲ別闢面ノ通旅順市大正公園ニ相シ前記ニ社
ノ神ヲ祭神トシテ二座ニ奉祀シ社號ヲ關東神社ト定メ社格ヲ官幣大社ニ
列セニレ候様御詮議方御取計相煩度此段及稟申候也

参考資料

一、創立計畫要項

一、造營準備調查費（豫算案）

一、創立計畫一覽（沿革）

一、植民地神社ノ狀況

關東神社創立計畫要項

創立計畫要項

一 創立趣旨

凡ソ國土ヲ拓キ民衆ヲ移シ彼等ヲシテ安心立命ノ地ヲ得シメ忠君愛國ノ實ヲ擧ゲントスルニハ須ラク神靈ノ應報ト民心ノ歸灣スル所ナカルベカラズ然ルニ關東州及管下各地ニ鎮祭セル神社ハ何レモ無格社タル地方的神社ニシテ未ダ在滿邦人一般ニ信奉スル所ノ廟社ナク民心ノ歸一ヲ圖ルノ點ニ於テ遺憾トスル所ナキ能ハズ殊ニ滿洲國建國後ニ於ケル日滿兩帝國ノ緊密關係並ニ在留邦人ノ活動發展ノ趨向ニ徵スルモノ際國風移植ノ大本トシテ在滿邦人等シク尊崇スペキ神祇ヲ勸請シ永ニ服本反始ノ誠ヲ致サシムルハ關東州統治上ヘ勿論在滿邦人ノ大陸發

展上ニモ最モ緊要ノ事トス就テハ茲ニ皇統ノ始祖ニマシマス 天照大神
ト鴻德偉業未曾有ニシテ我同胞ノ大陸發展ノ途ヲ開キ給ヘル 明治天皇
ヲ奉祀スル關東神社ヲ造營シ、地ヲ旅順ノ聖地ニ相シ、社格ヲ官幣大
社ニ列シ以テ民族生活ノ確立ヲ期スルト共ニ益々國民精神ノ振作ヲ圖
ラントス、之關東神社ノ創立ヲ計畫スル所以ナリ

二 鐘座地

旅順市大正公園及隣接山林地帶

一七八〇年九月改ム 九万坪

展上ニモ最モ緊要ノ事トス就テハ茲ニ皇統ノ始祖ニマシマス 天照大神
ト鴻德偉業未曾有ニシテ我同胞ノ大陸發展ノ途ヲ開キ始ヘル 明治天皇
ヲ奉祀スル關東神社ヲ造營シ、地ヲ旅順ノ聖地ニ相シ、社格ヲ官幣大
社ニ列シ以テ民族生活ノ確立ヲ期スルト共ニ益々國民精神ノ振作ヲ圖
ラントス、之關東神社ノ創立ヲ計畫スル所以ナリ

二、鎮座地

旅順市大正公園及隣接山林地帶

境內約 二十九萬坪

三、神社名

關東神社

四社格

官幣大社

五祭神

天照大神 明治天皇

六社殿其ノ他ノ設備

本殿、幣殿、拜殿、寶物殿、鳥居、社務所、其ノ他

七創立費及處辯方法

百萬円^ノ前後 万圓トシ關東局特別會計ヨリ支出ス

別ニ奉讀會ヲ設ケテ奉讀セシムル方針ナリ

八工事

昭和十三年度より五年間、経済上事一トニ年ノ繼續工事トシ昭和十二年度ニ於テハ

四社格

官幣大社

五祭神

天照大神 明治天皇

六社殿其ノ他ノ設備

本殿、幣殿、拜殿、寶物殿、鳥居、社務所、其ノ他

七創立費及處辯方法

創立費ハ八十万圓トシ關東局特別會計ヨリ支出ス

別ニ奉讀會ヲ設ケテ奉讀セシムル方針ナリ

八工事

工事ハ昭和十三年度ヨリ四ヶ年ノ繼續工事トシ昭和十二年度ニ於テハ

調査及設計ヲ完了シ同十三年度ヨリ障害樹木ノ移植、地均シ材料ノ蒐集ヲ開始スルルト共ニ各建物ノ建築ニ着手シ第四年度ニ於テ各附帶工事共（周囲隣、排水設備等）全部ヲ完成セシム

九 維持方法

創立後ハ社入金、官公ノ供進金、基金收入其ノ他ノ收入ヲ以テ維持スルコトトシ大体一ヶ年四万圓乃至五万圓程度トス

關東神社造營準備課查營

被	傳	給
服	小	職
書	使	務
借家及宿舍料	仕	員
一	一	一
人	給	給
合	料	科
六	三	九
二	〇	〇
八	〇	〇
一	一	一
一	一	一

浦洲神社 肇立計畫一覽（沿革）

申請年月	神社名	創立者	祭神	位位置	創立費	工期	神社建立費	基本金
大正四年乃至同八年八月三十日 （以下三十一日連署三郎）	慶順神社	市民有志（官民）	天照皇大神 大國主神 明治天皇	本社新市街内一町九分六坪	一八〇〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇
		御殿所 岐阜市 内島町街		内一町九分六坪	内一萬圓	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇
			補助	岐阜市 東都督府	不明	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇
					三〇〇〇〇			

備考

- 一、關東都督府ニ申請書ヲ提出シタル僅トナレリ
- 二、別ニ十五萬圓ノ補助申請ヲ爲セリ
- 三、初メ御大典記念事業トシテ計畫セリ

大正八年		官幣大社		天照皇大神		新市街		一〇八二二		大正八年	
		瀬洲神社		駿東廳		素 鳴 邦		大正公園		度ヨリ	
		(初メ開東神社トナレリ)		大國主尊		山林地帶		境內一六萬坪		全額國費	
備考	一、本案ハ大藏省ノ承認ヲ經豫算明細書中ニモ計上(印刷)セリ										
	二、外ニ乙丙ノ二案アリ 乙案ニハ一ニ回 丙案ニハ二ニ回										
大正十五年		官幣大社	開東廳	明治天皇	新市街	二二〇〇〇	大正十六	二二〇〇〇	大正八年	度ヨリ	
		瀬洲神宮									
備考	一、本案ハ大藏省ノ承認ヲ得ルニ至ラス										
	二、始政二十年記念事業トシテ計畫セリ										

申請 昭和八年一月 （以下二年間増名）		備考 一、本末ハ一應ノ計當ナリ	
瀬洲野宮		瀬洲神社	
會 宮 聖 建 瀬 洲 野	市 志 民	會 社 瀬 洲 聖 建 神	市 志 民
分 少 大 社 八 宮 白 社 別 天 明 社 照 皇 治 天 大 皇 大 神 命 命	播 乃 白 社 少 大 宮 木 玉 彦 巳 大 玉 貴 名 命	本 別 八 天 社 名 貴 命 命	本 明 八 天 社 照 皇 治 天 大 皇 大 神 神 神
境 分 内 社 内 新 市 街	境 内 宮 内 本 宮 大 正 公 園	萬 渡 舊 市 所 臺 街	萬 境 山 大 新 坪 內 林 正 市 一 公 街 六 帶 園
内 助 東 萬 高 一 面 補	内 助 東 萬 高 一 面 補	内 高 工 費 二 面 補	内 高 工 費 二 面 補
ケ 年 度 四 年 昭 和 八 年	ケ 年 度 四 年 昭 和 八 年	ケ 年 度 四 年 昭 和 八 年	ケ 年 度 四 年 昭 和 八 年
一 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇
造 成 當 初	當 初	當 初	當 初

備考

一、本申請書へ旅順民政署へ提出シタル僅トナレリ
二、社號ハ武蔵長官ノ承認ヲ得タルモノナリ

殖民地神社ノ状況

別 社 格	朝鮮神宮	樟木神社	臺灣神社	青島神社
列格告示年月	官幣大社	同	上	同
起工年月	大正八年七月	明治十三年八月	明治三十三年九月	一
竣工年月	大正九年五月	二月	三十二年二月	大正五年二月
鎮座祭年月	大正十四年十月	明治十四年八月	三十四年六月	九年五月
天照大神	・	・	・	八年十一月
明治天皇	一座	・	・	・
大國魂命	・	・	・	・
大己貴命	一座	・	・	・
少彦名命	・	・	・	・
能久親王	一座	天照大神	明治天皇	大國魂神
		一座	一座	一座

水 社 祭 神 神 祝 神
別 務 器 壇 檀 論
屋 館 所 廉 廉 門 廉 殿

神明造	菅院造	銅板葺	神明造	銅板葺
一九	八八三	二	一	六
坪				

銅神明板造	木平家銅板葺	銅板瓦葺造	銅神明板造	銅神明板造
二	四九	二	二	六
坪				

銅板葺	煉瓦造家	銅板葺	銅神明板造	銅破板風葺造	銅神明板造
一	七六九	一	一	一	一
坪					

神明造	神明造
一	六
坪	

間

東

局

創立費	境内攝社内居	神符授與所鳥
外ニ神苑 附屬地 一一八〇〇	木石造 鐵筋造 一一	一基 一六坪
(國)内工事費 事務費 外ニ參道費 一一七〇〇	八一〇〇坪	
約	一一九一八坪	木板葺 銅板葺 一一
(國)内工事費 一一七二二	外ニ附屬林 一一九三八	木神明造 銅板葺 一一
雜費 一八四三	外ニ田畠等 二六九一〇	石神明造 一基
	一一九八二坪	
	稻荷比羅神 六六二二一	木神明造 一基
	刀比羅神 六六二二一	
	一九一四六	

關東聯畠課定地圖書

土地ノ所在　番地目録　續表

旅順市新家溝 四五ノ一都 軍 七四九一〇坪

坪數ハ概略ヲ示シタルモノ

高崎町 一五ノ一都 林野 七四〇

日通町 一七 宅地 七五六

一八 宅地 六一八

一九 林野 四一七六

二〇ノ一都 林野 五八〇

佐倉町 七ノ一都 軍 六三一

八ノ一都 宅地 一六一

九ノ一都 畜牧地 一二〇九八

	豊橋市佐倉町	一〇	櫻種地	九八三
	一一 起	二九六三		
	一二 櫻種地	二二一九		
	一三 林野	三三四七		
	一四 林野	一八三〇		
	一五 林野	六三五〇		
吉野町	一五ノ一 郡 甲	六三九		
一六ノ一 郡 宅地	一七〇			
二二ノ一 郡 宅地	一九五			
赤羽町	一二 宅地	三七八		
一三 宅地	三四二			

旅順市常盤町

九 宅 地

二六〇

一〇 宅 地

三二六

一一 宅 地

三二六

一二 宅 地

三二九

一三 宅 地

三〇六

一四 宅 地

三二一

一五 宅 地

二九〇

一六 宅 地

二七八

一七 宅 地

二七〇

二七八

吾妻町

		廿九市番地町	一九宅地	二〇四
		二〇宅地	六〇五	
		二一宅地	二六七	
		二二宅地	六一三	
		二三宅地	五三〇	
		二四宅地	五四四	
		二五宅地	五三四	
		二六ノ一宅地	一一〇一八	
	断	一一一宅地	四八二六	
方家申會		林野	一六六三	
上太馬鹿屯	四八二一	軍	二八四〇〇	
水歸會				
三里橋屯	四四三二			

關東局

道
路
合
計
八四六四
一七五二三四

關東神宮奉贊會設立要綱案

第一 名 稱

一、本會ハ關東神宮奉贊會ト海スルコト

第二 目的及事業

一、本會ハ關東神宮外苑等ノ附帶施設ヲ爲シ關東神宮ニ奉獻スルヲ目的トルコト

二、前項ノ附帶施設ノ施行ニ付テハ關東神宮達營事務所（假稱）ニ委嘱スルカ又ハ其ノ認可ヲ受ケルコト

第三 事務所

一、事務所ハ關東局若ハ關東州廳内ニ置キ必要ノ地ニ支部ヲ置キ侍ルコトトスルコト

第四 經費及會員

一、本會ノ經費ハ會員其ノ他ノ寄附ヲ以テ之ニ充ツルコト
二、本會ニ建造物木石等ノ寄附申出アルトキハ審査ノ上之ヲ受領スルコト
三、本會ノ事業ヲ翼賛スル者ハ之ヲ會員又ハ贊助員ト稱スルコト
會員ノ種類ハ別ニ之ヲ定ムルコト

四、本會ノ豫算及決算ハ毎年役員會へ假稱ノ承認ヲ經ルコト
五、本會ノ會計年度ハ官廳ノ例ニ依ルコト

第五 役員

一、本會ニ左ノ役員ヲ置クコト

會長・副會長・理事及評議員ヲ置クコト

會長一名 副會長二名 理事及評議員若干名

二、會長ハ會務ヲ總理スルコト

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理スルコト
理事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ業務ヲ處理スルコト

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ重要事項ヲ審議スルコト

三、本會ニ顧問若干名ヲ置クコト

第六 解散及財產處分

本會ハ其ノ事業完成ト同時ニ解散スルモノトシ一切ノ財產ハ之ヲ關東
神宮ニ獻納スルコト

備 考

- 一、本會ノ創立方針其ノ他一設立要綱、設立時期、實行方法、會員募集ノ範圍及會員種類、決定等ニ關シテハ別ニ關東局内ニ設ケル關東神宮造營委員會ニ附議決定ノコト
- 二、會長ハ關東局主腦者（例ヘバ關東局總長若ハ關東州縣長官）ヲ推戴スルコト
顧問ハ旅順要塞司令官、旅順要港部司令官、滿鐵總裁等、官民有力者ニ委嘱ノコト
- 其ノ他ノ役員ニ付テハ關東局職員、自治團體ノ理事機關、商工會議所會頭其ノ他官民有識者中ヨリ之ヲ選任スルコト
- 三、本書ノ事業ノ範圍ハ概ね外苑ノ建設、神苑ノ玉垣、參道等ノ附帶施設ヲ目的トス

昭和十三年度歲入歲出預算

今特別會計預算

大藏省所管

割東局 隨時部

第一款

事業費

第一項 關稅神宮造營費

一五〇〇〇〇〇四

内閣告示第十二號

一朝鮮神社

祭神 天照大神

明治天皇

右神社ヲ朝鮮京畿道京城府南山ニ創立シ社格ヲ官幣大社ニ列セラル
ル旨 仰出サル

大正八年七月十八日

内閣總理大臣

参考

◎朝鮮總督府告示第三百十六號

昭和十二年五月十五日左ノ神社ヲ國幣小社ニ列セラル旨 仰出サル
昭和十二年五月十五日

朝鮮總督 南 次郎

一大邱神社 慶尚北道大邱府達城町鎮座

祭 神

天照大神

國魂大神

一 座

一 平壤神社 平安南道平壤府慶上里鎮座

祭 神

天照大神

國魂大神

一 座

設計圖 其他

このコマには 図面
表等がありますから下
記の原本をみてください。

請求番号

2A12 類 2175

後日寄付

金四八
向量是入

内
參
安

關東州及南滿洲鐵道附屬地、未々立滿邦人一般、

信奉人之所、廟社十、民心、歸一、國上、於、

遺憾、點、下、此、際、此、地、神社、創立、人、下、八

關東州、院、上、以、論、在、滿、邦、人、大陸、發展、上、之、際、要

、コトト、甲、至、滿、儀、認、大、事、之、星、統、始、祖、在、之、入

天照大神、卜、鴻、德、算、業、未、曾、有、之、找、同、胞、大陸、葬

鹿 一 通 + 招 + 無 + 八 明治天皇 + 二神 + 祭神 + 三

奉祀名 潤川 神社 +

製本用 紙吹布 = 創立 + 社號 + 関東

神官 + 定 + 社號 + 在縣大北 + 列也 + 二人 樹脚躬

七致之度 + 一、在也 +

閣第一〇九號

屬

六月十三日

昭和十三年六月三日

内閣總理大臣

宮内大臣宛

關東神宮創立ニ閣スル件

本月一日附内閣閣甲第一〇九號ヲ以テ關東
神宮創立被仰出候旨及通牒置候處

同神社創立ニ関シテハ別紙案(寫)ニヨリ
勅裁ヲ仰ギ候條為参考供貴覽候

(別紙案(寫)ヲ添附ノコト)

起案理由

式部職掌典部ヨリ關東神宮創立ノ件ノ上奏書寫
ヲ送付アリタキ旨電話ヲ以テ申出アリタルニ依ル

尚内務省所管ニシテ本件同様ノ場合ハ其ノ都度上奏書
寫(内閣總理大臣官進達)ヲ官内省、送付ニ居レル趣ナ

(別紙)

(昭和十三年五月二十四日上奏)
同日裁可

別紙滿洲國駐劄特命全權大使稟申關東神宮創立ノ件ヲ審査スルニ
關東州及南滿洲鐵道附屬地ニハ未タ在滿邦人一般ニ信奉スル所ノ
廟社ナク民心ノ歸一ヲ圖ル點ニ於テ遺憾ナキ能ハス仍テ此ノ際關
東州旅順市ニ神社ヲ創立シ 皇統ノ始祖ニ在シマス 天照大神ト
鴻德偉業未曾有ニシテ我同胞ノ大陸發展ノ途ヲ拓キ給ヘル 明治
天皇ノ二神ヲ祭神トシテ二座ニ奉祀シ社號ヲ關東神宮ト定メ社格
ヲ官幣大社ニ列セラレ度ト云フニアリ關東州統治上ハ勿論在滿邦
人ノ大陸發展上ニモ緊要且至當ノ儀ト認メラルニ付右神社創立

ノ儀奏請相成然ルヘシ

追テ本件御裁可ノ上ハ六月一日創立仰出ノコトト致度

内閣告示第三號

一關東神宮

祭神 天照大神
明治天皇

右神社ヲ關東州旅順市ニ創立シ社格ヲ官幣大社ニ列セラル旨
仰出サル

昭和十三年六月一日

内閣總理大臣

通牒案

昭和十三年六月一日

内閣總理大臣

宮内大臣宛

一關東神宮

右神社ヲ關東州旅順市ニ創立シ

天照大神ノ二神ヲ祭神トシテ二座ニ奉祀シ社格ヲ官幣大社ニ列セ
ラル旨被仰出候

關行第二九七六號

昭和十一年十二月十七日

滿洲國駐劄特命全權大使 植田謙吉

圖

内閣總理大臣 廣田弘毅 殿

關東神宮創立ニ關スル件

凡ソ國土ヲ拓キ民衆ヲ移シ彼等ヲシテ安心立命ノ地ヲ得シメ忠君愛國ノ實ヲ擧ケントスルニハ須ラク神靈ノ應報ト民心ノ歸衢スル所ナルヘカラス然ルニ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニハ未タ在滿邦人一般ニ信奉スル所ノ廟社ナク民心ノ歸一ヲ圖ルノ點ニ於テ甚タ遺憾ナキ能ハサル次第ニ有之候ニ付テハ此ノ際國風移植ノ大本トシテ在滿邦人等シタ尊崇スヘキ神祇ヲ勸請レ水ヘニ報本反始ノ誠ヲ致サシム

ルハ關東州統治上ハ勿論在滿邦人ノ大陸發展上ニモ最モ繁要ノ事ト存候就チハ茲ニ

皇統ノ始祖ニ在シマス 天照大神ト鴻德偉業未曾有ニシテ我同胞ノ大陸發展ノ途ヲ拓キ給ヘル 明治天皇ノ二神ヲ奉

祀致度社殿ノ造營ハ昭和十三年度ヨリ^五暦ヶ年ノ繼續事業トシ之力創立調査準備費トシテ昭和十二年度豫算ニ二万五千圓ヲ計上致候ニ付社地ヲ別圖面ノ通旅順市大正公園ニ相シ前記二柱ノ神ヲ祭神トシテ二座ニ奉祀シ社號ヲ關東神宮ト定メ社格ヲ官幣大社ニ列セラレ候様御詮議方御取計相煩度此段及稟申候也

(圖面省略)

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

閣印第 三三七號

起 昭和十二年二月二日 決定 昭和 年 月 日 署
案 附可 昭和十二年二月十五日 行

昭和十二年二月十六日 公布

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

遞信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

拓務大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

關東州阿片令中改正ノ件
右樞密院ノ御諮詢ヲ經テ御下付：付